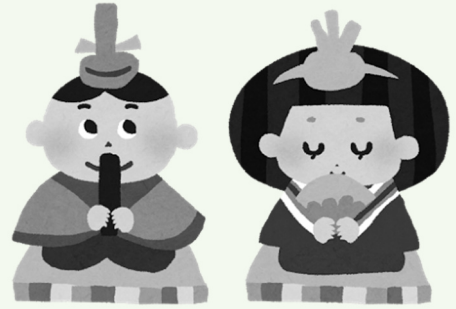


ふいるさとのうた

剣淵文化協会俳句部会



土の香はまたまた先ぞ恵方巻

西原町 児玉 久美子

生きざまは佛見てをり冬銀河

緑町 池田 良子

一月の雀にもある好ききらい

西岡町 渋谷 みさ子

鳥ひかる窓一杯の春日かな

仲町 玉野 研一

みどり児の産毛金色春の風

南桜町 宮腰 幸子

風花や亡姉のこえする文を読む

西町 金澤 頼子

風花や繋がる友と約束す

元町 印牧 安子

コナ禍に無為の日過ぎて日脚伸ば

元町 西崎 弘子

春近し大地の鼓動足で聞く

仲町 坂部 和子

コナ禍の自粛延長春立つ日

仲町 梅基 文子

道端のスナップぽんちと春浅し

旭町 大河 博子

重ね着し暮らす半年陽の恋し

西町 岸波 君江

五分程雪壁つづく通学路

西町 杉浦 とし枝

節分の鬼もマスクでコナ打ち

藤本町 鈴木 ゆき子

鬼は外一病被う豆を撒き

西岡町 高瀬 久美子

母いも何かに煮ていた寒の明

東町 高橋 世津子

凍雲いづくもやボールペンのインクの出悪し

西町 文梨 清子

滑翔の大鷲またぐ落暉かな

仲町 芳賀 星子